

新年のご挨拶 (びわこ学園理事長 山崎正策)	1P
二十歳おめでとうございます	2~3P
スタッフhistory④ (勤続25年を迎えられた職員編)	4~5P
施設等Topics①	6~7P
施設等Topics②	8P
施設等Topics③	9P
施設等Topics④	10P
びわこ学園実践研究発表会報告	11P
ご協力ありがとうございます (R4年8月~R4年11月)	12P

びわこ学園だより

発行責任者 理事長 山崎 正策
 編集責任者 法人事務局 田處 浩吉
 印刷 近江印刷株式会社

新年あけましておめでとうございます

社会福祉法人びわこ学園理事長 山崎 正策



新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、令和5年の新春を健やかに迎えにいられたこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

今年はびわこ学園創立60年を迎える年となります。

「この子らを世の光に」という大変大きな理念を掲げながら、糸賀一雄先生や岡崎英彦先生の思いを受け継ぎ、実践という形での療育活動を長年繰り広げてきました。

ももとは近江学園に入所されている純真な心の持ち主である知的障害児から、その育ちと社会的人間の正しい姿を学ぼうとされていたようですが、次第に受け止める障害の程度が重くなり、当時は支援も乏しかった重症心身障害児を受け止めるにあたり、彼らとの信頼関係をしっかり築くことで、彼らの発達を少しでも促していこうと考えられるようになりました。そして彼らの発達を促していくことこそが、すべての子どもの発達を正しく支援することにつながり、正しい社会を作っていくことを熱望されていたのではないかと思います。

しかし、重症心身障害児と信頼関係を築き、彼らの発達を促していくということは、並みだいたい事ではなく、方法論さえも築かれていませんでした。

当時の岡崎先生は以下の様に言っておられました。

「現在の学問や技術だけではどうすることもできないほどの障害を根に持っている子どもを前にして、私たちはやはり、赤裸々な人間として、一つのいのちとして相対する以外にすべがないように感じます。この子どもたちも他の子どもたちと同様に全力で生きているのです。私たちも私たちなりに、全力で相対する努力なくしては、その子どもたちについていけないものを感じております。そのふれあいの中で感じとられたものが、この仕事の意味であると思われまます。」

これを受けて、びわこ学園では実践というかたちでの療育方法を築いていったのだと思います。

重症児を中心に据え、彼らのことをしっかり理解することで、必要な療育を考えてきました。時には職員が先走って一方的な療育支援を実施してしまうこともあり、「本人さんはどう思っているのか」という大切な注意を発しておられました。

それから五十数年、重症心身障害を持つ方々の様子も大きく変わりました。施設を利用されている方々の医療支援度が増し、一方では在宅で生活される方々も増え、様々な医療や個別支援が必要になってきています。

そのような大きな変化の下で、我々は改めて障害児者支援の原点に立ち戻り、人間社会における共生の意義を、障害児者から学び続けていきたいと思っております。

皆様方のさらなるご理解とご支援よろしくお願い申し上げます。



令和5年4月1日までに
二十歳を迎える方がた

二十歳おめでとう ございます

～新たな出発を祝して～

令和4年4月2日から令和5年4月1日までに二十歳になられる
皆様をご紹介させていただきますとともに「二十歳おめでとう」を申
し上げます。今後一層充実した日々を過ごされることを願っています。

びわこ学園
医療福祉センター野洲



林 知広さん

知的障害児者地域生活支援センター



浦川琴音さん
(さくらはうす)



小椎八重春香さん
(さくらはうす)

びわこ学園障害者 支援センター



山中晃樹さん
(えがお)



築道琳生さん
(たいよう)



興梧達哉さん
(たいよう)



立田百香さん
(たいよう)



松尾理沙さん
(かなえ)



風井寛香さん
(かなえ)



岸田萌花さん
(かなえ)



中田聖人さん
(かなえ)



渡邊菜月さん
(かなえ)



田場さやさん
(かなえ)

職員History④ ～勤続25年を迎えられた職員編（令和4年度 岡崎賞受賞職員）～

第141号に続き、ここではびわこ学園で勤続25年を超えて働いておられる皆さんに綴っていただきました。



平成9年に、副園長として赴任して25年になるが、最初に滋賀医大の研修医の時に、びわこ学園で当直や研修をするようになってからの関わりは、すでに38年になるうとしている。

最初、大津市長等の旧第一びわこ学園に赴任した

時、加湿器の水蒸気の向こうから現れる利用者の声や姿と歌声、外で舞い散る桜の花びらのコントラストに、息づくいのちとでもいうべき不思議な感覚を覚えた。そこに岡崎先生、高谷先生という師がいた。

また、当時の旧第二びわこ学園では、僕の当直を楽しみにしてくれる利用者がいた。そうした方々に支えられて何とか今日まできた。感謝とともに、これからも、皆さんと一緒に、悩み、苦しみながらも、そこに確かに在る「いのちの輝き」を感じあいながら生きていきたいという思いでいっぱいである。

（口分田政夫・施設長（医師）・26年目）
びわこ学園医療福祉センター草津



平成8年の8月に8年勤めた病院を辞め、しばらくゆっくりしようと思っていた矢先、「びわこに看護師さんが不足して1か月だけでも手伝ってほしい」と懇願され、軽い気持ちで見学に訪れたのが25年前、平成8年の11月に入職しました。

当時は1か月だけの手伝いのつもりで来たのに、25年もいるなんて。それも草津だけで。そして部長までなってしまう。なんということでしょう。自分自身がビックリです。最初は泣いてばかりだったのに、すっかり生き字引のようになってしまいました。びわこ学園は楽しいことも辛いことも沢山あったけど、自分を成長させてくれた大事な場所だと思っています。

（逸見聡子・看護部長・26年目）
びわこ学園医療福祉センター草津



このたびはこのよう
な賞を頂きまして本当にありがとうございます。看護師として自分にできる精一杯の積み重ねが、こうやって岡崎賞という形となった事で一つの良い意味での節目になったのかな、と感慨深い思いで

いっぱいです。求人広告を見て何となく就職して25年です。人生何がどうなるのかわからないものです。第二びわこ学園の温かく自由な雰囲気がいつも私を包んでくれていたこと、夜遅くまで先輩や後輩、同僚と利用者さんの事を夢中で語り合ったことを時折懐かしく思い出します。それほどに利用者さんは魅力的で、無力な私を受け入れて下さる大きな存在でした。皆さまに導かれようやくここまでやってこられました。決して私だけの力ではたどり着く事はできなかったと思います。皆様方には感謝してもしきれません。これからもより一層気持ちを引き締めて頑張っ参ります。本当にありがとうございました。

（中村麻子・看護課長・26年目）
びわこ学園医療福祉センター野洲



永年勤続25年。先輩たちが通った地点に立つことができました。温かく、懲りずに私を見守り、助けてくださりありがとうございます。

1994年冬、薄暗い第二びわこ学園の会議室での山崎園長（当時）の面接。人生の分岐点だったと思います。それから25年間、異なる職種の先輩に

導かれ、施設、訪問、在宅、地域、通所、様々なフィールドで働く機会を頂きました。

沢山の利用者・家族とスタッフに出会い、共に悩み、喜びました。時に「自分のしたい仕事でない」と腐った時期もありましたが。今となっては正反対の位置にある仕事もつながっていると云えます。“すべては自分の成長の栄養”ですね。

また、休職制度をつくって頂けたことで2003年から2年間、青年海外協力隊としてベトナム社会主義共和国のボランティア活動に取り組みました。改めてお礼を申し上げます。赴任先では、「夜明け前の子どもたち」の世界にタイムスリップした経験ができ、生涯の財産、仕事への向き合い方の土台になっています。

「内藤君。行ったら行った先で、する仕事はあるんだよ！」かつての上司の言葉が支えとなっています。等身大でできることをコツコツやっていきたいと思っています。

（内藤誠二・理学療法士（リハビリ課長）・26年目）
びわこ学園医療福祉センター草津

25年前の春。現在のさんさん通所に就職しました。それまでは医療現場での勤務だったので、最初は戸惑うことも多かったのが正直な気持ちでした。

しかし、通所で働くうちに地域で暮らしておられる方の“医療を支えるという大きな使命”を、といえ少し大げさな言い方かもしれませんが、それほど私にとってはやりがいのある仕事に出会えたのではないかと、学園での就職を勧めて下さった元職員の方に感謝しています。

25年は長いようで短い。この25年の間、いつもどんな時でも出合いを大事にしたい、そして出会った方の気持ちを大切に、寄り添えられたらなあと思ってこの仕事を続けてきました。今まで出会った利用者さん、ご家族、スタッフの方に支えられていたから、こうして続けることができたのだと感謝しています。

これからも出合いを通して多くの事を経験し、学び、楽しむことを、体力の続く限り出来るように一日一日を大事に過ごしていきたいと思います。



(高田麻希子・看護師・26年目)
びわこ学園障害者支援センター・さんさん



19歳で第一びわこ学園に就職して26年目となりました。最初は深く考えず軽い気持ちで入りました。利用者さんが食事を取りに来てくれるたびに挨拶をしているうちに、私自身に会いに来てくださる利用者さんが増えていきました。そして、会話をすることが日課になりました。しかし、何を話されているのか解らず病棟職員やご家族に話を聞き、もっと理解していきたいと思うきっかけになりました。印象に残っている利用者さんの言葉があり、一人の利用者さんにお寿司を提供した時でした。「特別に出してもらい有難いが、皆と同じ食べ物で皆と笑顔の中で食事がしたい」と言われました。私たちに改めて考えさせられる一言でした。これまで支えて下さった利用者さんやご家族の方々、他部署の職員に恩返し出来るよう初心忘れず日々精進していきたいと思ひます。

(大田 忍・調理師・26年目)
びわこ学園医療福祉センター野洲



保育の専門学校を卒業した私に声をかけてくださったのは当時の第二びわこ学園の職員さんでした。東棟の所属になり緊張する間もなく日々上司、先輩方から教わりながら毎日を精一杯過ごしていたのを鮮明に思い出されます。

まだ利用者の方も若く、三上小学校での運動会、湖水浴、お泊り外出、学園祭といった行事もあり、利用者さんと同じように楽しんでいました。東棟の利用者さんの生活は大家族のようなイメージでアットホームな感じでした。あちらこちらで笑い声やけんかの声が出て、その奥では何人かが集まり藤棚でおやつを食べているといった一見バラバラに見える光景も実は全員が一つにまとまっているんだよと利用者さん、職員皆が思っていて過ごしていたと今でも思います。その頃を一日一日を精一杯楽しく過ごせた事を思い出しながら、これからも精一杯向き合っていきたいと思ひました。

25年もの間、関わってくださったびわこ学園の皆様ありがとうございました。

(長谷川秀樹・生活支援員・26年目)
びわこ学園医療福祉センター野洲

私がびわこ学園に初めて行ったのは、学生時代の施設見学でした。当時は第二びわこ学園と言われていて、なかなかのカルチャーショックを感じたのは今でも覚えています。施設実習先を選択する際も、「生半可な気持ちで行くべきところではない」と先生が言っていたこともあり、もう来ることはないだろうなあ…そう思っていたのですが、その後、なんと自らびわこ学園に就職することに!!でも、その時も「長くは勤められないだろうなあ。とりあえず3年は頑張ろう」そう思って働きだしました。その3年後に、知的障害児者生活支援センターが設立されることになり、私に異動辞令が!!「じゃあ、あと3年頑張ってみるかあ」そんな積み重ねで、今に至ります。今もどこかで「あと3年」と思っていますが、利用者、ご家族との出合いや一緒に仕事をする仲間との出合いが、私の「3年」を延長させています!



(谷 由佳・通所課課長・26年目)
びわこ学園障害者支援センター・ピアーズ

「ひとりひとりがヒーローのように」

～マーベルスター全国重症心身障害日中活動支援協議会全国大会へ～

びわこ学園障害者支援センター・えがお利用者 中川 渉斗・カワムラ ケルイン・田西 裕也・福井 響

ワクワク、ドキドキ 滋賀～長崎への旅



米原から京都へ

米原駅では4回エレベーターに乗っていかないとホームに登れなかったのですが、少々移動に苦労しましたが、新幹線の乗り込みなどは不便なくスムーズに出来ました。

車両内では車いす席、多目的室を利用しました。こだまの中は車椅子で移動しやすく、様々な人が困ることなく安全に使える設計で素早く動けました。

京都から博多へ

京都から先は自分たちの活動では初めて向かったので、少し景色を楽しみながら博多まで移動しました。

博多駅に着いて、新幹線を降りた時ホームが煉瓦造りだったので、強く印象に残りました。そして駅員さんの案内を受けて、次に乗り換える「リレーかもめ」を待ちました。



博多から武雄温泉へ

武雄温泉まではグレーの塗装が印象的で格好良い「リレーかもめ」に乗りました。ですが、出入口や連絡通路がとても狭く、車いす席もなかったので3台乗るのにかなりの手間がかかりました。

武雄温泉から長崎へ

長崎までは9月に開業された西九州新幹線「かもめ」を利用しての移動でした。

かもめは出入口が広く、車いすの私たちが利用しやすい車両でした。駅員さん達も、丁寧に案内をしてくださり、乗降をスムーズに行えました。かもめには、また乗りたくなるような良い印象でした。



私たちの活動名は「マーベルスターNO.1」です。中川 渉斗をリーダーとして、カワムラ ケルイン、田西 裕也、福井 響の4人で活動しています。

マーベルという言葉には「驚くべきこと」や「不思議な力」という意味があり、そこに「スター」と「NO.1」をプラスして、“ひとりひとりがヒーローのように自分の特性を活かせる社会をつかっていきたい”との願いを込めてこの名前を付けました。

全国重症心身障害日中活動支援協議会は「笑顔」と「希望」と「輝き」がテーマの全国大会で、長崎ブリックホールで行われました。私たちは、4つあるプログラムの中の実践報告の回で発表しました。みさかえの園あゆみの家の吉田 拓哉医師を座長として迎え、15分間で「日中活動における社会啓発活動の取り組み」について「マーベルスターNO.1」のことや日々行っている活動について、会場やリモート参加している方々に伝えました。

私たちの行っている活動は、ピアピアと称した「CILだんない」、マルチスイッチとの会議、ペットボトルリサイクル、バリアフリー啓発、自立支援協議会への参加が主な取り組みです。

発表の資料として作ったパワーポイントは、すべて自分たちで考え、編集しました。初めて作ったので苦労しましたが、とても良いものが出来上がったと思っています。

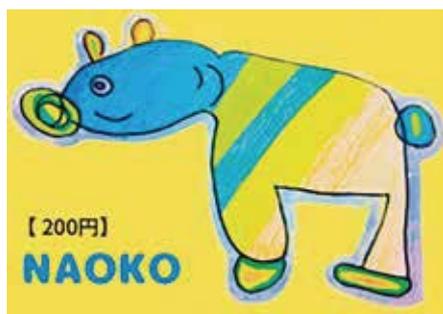
発表には手ごたえをしっかりと感じ、会場の反響も大きかったので、良い経験になったとともに、次の機会にも活かせるような時間でした。

【最後に、参加したみんなから一言】

- ・私は大人になって初めてこのような大規模な協議会に参加したのでとても緊張しましたが精一杯頑張ったと思います。(カワムラ ケルイン)
- ・初参加で発表したにもかかわらず、発表をみんなに聞いてもらえて嬉しかった。また発表したい。(田西 裕也)
- ・今度はもっと上手く発表出来るようになりたい。(中川 渉斗)
- ・今回はリモート参加だったが、次回は現地参加したい。(福井 響)

私たちは社会啓発活動を続けながら、次回、このような機会に向けて日々の活動を頑張っていきたいです。

「マーベルスターNO.1」の応援よろしくお願ひします。



カワムラ ケルイン作



左から、中川さん、田西さん、ケルインさん、福井さん



オリジナルステッカーの紹介です。ポジティブになれるようにと気持ちを込めて作りました。一枚200円で売っていて、これによって集めたお金は「バリアフリー啓発」活動に使います。

活動の様子を
インスタグラムで発信しています。
MARVELSTAR NO.1【えがお】



「わくわくどきどきしたいんじゃー、シン・びわこ学園秋祭り」 ～「ふれあい」をテーマに笑顔の溢れる最高の時間～

びわこ学園医療福祉センター草津・第3病棟 生活支援員 谷口 和也

秋祭りの1週間前の天気予報では降水確率が高くなっていましたが、みんなの気持ちを通じたのか、令和4年10月16日（日）きれいな青空の下開催することが出来ました。今年の秋祭りのテーマは「わくわくどきどきしたいんじゃー、シン・びわこ学園秋祭り」テーマ曲は嵐の「ハピネス」。テーマの“シン”という言葉には“新”“真”といろんな気持ちを込めてみんなでワクワクドキドキの秋祭りを作り上げてきました。

オープニングでは代表の利用者さん2名と共にパネルを発表。テーマは「ふれあい」。利用者さんの手形足形を使い、7色の虹で表現しました。小さな隙間の中にはびわこなまも複数入っています。このアートパネルは屋内の廊下に設置して、皆さんに見ていただけるようにしています。

野外ステージは、午前2部、午後2部の4部構成で参加者が密にならないように配慮しました。午前のステージは「キラリ☆ウインドポップス」さんの演奏でした。色んな楽器の音のハーモニーとノリの良い楽しい歌声で利用者さんだけでなく参加されたご家族やボランティアの方も笑顔になっていました。



午後のステージは「みみすまバンド」さんの演奏でした。今年のテーマ曲である「ハピネス」や「グリーングリーン」を歌っていただきました。昨年に引き続き利用者さんの名前を呼んでいただいたり、誕生日の利用者さん2人に向けてハッピーバースデーの歌のプレゼントもあり、笑顔が絶えないステージとなりました。

午後のステージの後には、びわこ学園創立60周年企画として、職員や利用者さんが作詞や作曲をしたオリジナル曲を職員のギターに合わせて歌い、曲に込められた思いを振り返りました。これまで歌い継がれてきた曲に、みなさん手拍子でとても盛り上がりました。今年は「ステージの様子を病棟内でも見るができるように！」とオンラインでつな

ぎ、一日通して秋まつりのステージを楽しむことができました。また、野外ステージとは別に、各病棟で体験ブースとして1・2病棟は「スヌーズレンコーナー」3病棟は「ピクチャリウム」を行い、いつもとは違う雰囲気の中でリラックスする音楽を聞いて、ゆっくりとした時間を過ごされました。

模擬店の出店は今年も感染対策から見送りとなりましたが、利用者さんのリクエストやアンケートから、お祭りの雰囲気を味わってもらえるよう「かす焼きそば（大阪のご当地グルメ）」とデザート「チョコバナナ」に決定。みなさん笑顔でおいしそうに食べられ楽しい昼食の時間となりました。また、「わたがし」を各病棟に用意して味わいを楽しまれる利用者さんもおられました。

最後となりましたが、南笠東学区社会福祉協議会様、パナソニックアプライアンス労働組合草津地区支部様より、活動や日常の中で楽しむことができる楽器や物品を寄贈していただきました。毎年のご厚意に感謝申し上げます。

ご参加して下さったご家族、ボランティアの皆様、多くの方々のおかげで笑顔の溢れる最高の時間を作りあげることが出来ました。本当にありがとうございました。



「センター野洲学園祭～『新時代 ～つぎへの一歩～』」 ～形を変えながらもいろんな人のいい笑顔が見られるイベントを～

びわこ学園医療福祉センター野洲 第1病棟生活支援員（学園祭実行委員長） 野並 弘恵



令和4年10月21日、澄み渡った秋晴れの下、恒例の学園祭が開催されました。昨年に引き続きコロナ禍であることや感染の流行状態などを踏まえ、ご家族やボランティアの皆様には参加いただけませんでした。が、学園スタッフと利用者で秋の一日を楽しみました。

施設外から来られる方がたの参加が難しいことや接触することでの感染リスクもあり、以前と同じような1日開催は難しいとの判断で、昨年度と同様、学園祭とは別の日に病棟ごとで、病棟オリジナルの学園祭イベントを行いました。

第1病棟はゲームコーナーを設け、散歩のときなどに楽しみました。第2病棟は開催日を2日に分け、グループごとそれぞれ工夫を凝らしたステージ発表等を楽しみました。第3病棟は外のステージを使って職員有志の出し物や利用者さんとの歌の出し物で楽しみました。

各病棟そろって参加したメインイベントが、学園祭恒例のHAMORI-BEさんのコンサートでした。昨年に引き続き、中庭にある外のステージで歌って頂きました。昨年HAMORI-BEさんが「中庭で歌った時の音の反響が良い」と言っていた場所での開催で病棟毎にゾーン分けして集まって参加しました。高野施設長の開会あいさつの後、第3病棟利用者さんの開会宣言、今年の学園祭テーマに沿った絵を描いた熱気球のテープカットをHAMORI-BEさんと第1病棟の利用者さんで行いました。その熱気球を各利用者さんに見て頂く為に利用者さんの中に入って練り歩きました。利用者さんによっては触って離せなかったり、触れてビックリされたり喜ばれたりしていました。



その後はお待ちかねのHAMORI-BEさんコンサート。素敵な歌声にどの利用者さんも良い表情をみせて下さいました。耳馴染んだ優しい童謡を中心に歌って下さり、利用者さんが好きな格好や場所に行き思っているように聞いていました。また体調が優れなくなり退席してもHAMORI-BEさんは優しく受け止め、気にせず聞いて下さいというような温かい言葉を掛けて下さいました。

コンサートの終わりには、第2病棟の利用者さんからお礼の歌をプレゼントすると、HAMORI-BEさんも喜んで下さいました。

コロナ対策をしつつ全病棟利用者の方々が揃って楽しめるイベントをするのは難しくなりつつあるものの、長年にわたって楽しまれてきた形を変えながらも続ける意味を考えての開催でしたが、どの利用者さんも職員も笑顔が多く見られたのは実行委員会にとってうれしいことでした。

来年はびわこ学園開設60周年に当たる記念すべき年となります。色々な課題はありますが、来年も利用者さんをはじめ、いろんな人のいい笑顔が見られるイベントとなる事を今から願っています。



Topics④

「おまつりはうす」じゃない、「こまつりはうす」

～いっぱい笑顔2022を振り返って～

知的障害児者地域生活支援センター こまつりはうす実行委員会 川島 修子



2020年からのコロナ禍の状況の中、利用者さんにとっての行事の在り方をこの間検討して進めてきました。当センターでは、毎年秋に地域との交流行事として利用者・家族・地域の方・ボランティアをはじめ沢山の皆さんの参加で「おまつりはうす」を開催してきました。ここ2年は規模を縮小しながらの実施を進めてきて、今年の開催方法についても検討を重ねてきた結果、「おまつりはうす」ではなく「こまつりはうす」として、感染

予防を十分に図るため、3階利用者、4階利用者とフロアを分けて令和4年11月11日（金）に開催しました。

3階フロアでは、午前中に「ムジグル」によるライブ、昨年度の利用者のリク



エストにもこたえて頂き、一緒にマイクで歌う様子や「空をめざして」の歌で身体を揺らして楽しんでいる姿が見られ、澄んだ歌声と演奏が3階ホールに広がり、まさしく「いっぱい笑顔」をたくさん見る事が出来ました。

午後からはゲームコーナーで金魚すくいと風船釣りをを行い、風船釣りでは天井につるされた大きなバルーン、消防車、くまさん、ユニコーン等おのおの自分の欲しいバルーンを手に掴もうと果敢にチャレンジする姿が見られていました。一方の金魚すくいではグループのオリジナルポイで金魚に臨む利用者や



「とれへんな〜」「とれたわー」「もっととる」と言いながら楽しそうに金魚の置いてあるテーブルを囲んでいる姿が見られました。



また、4階フロアでは、会議室、廊下とフロア全部を会場として「金魚すくい」「だるま落とし」「的あて」「お菓子釣り」を行いました。ゲームで使用する備品は利用者、職員と一緒に作成し、皆で準備してきました。「お菓子釣り」には、当たり券もあり、当たりを釣った時は、会場で、歓声と笑顔に包まれました。（ちなみに当たりは、もう一回釣る事ができ、お菓子が2個もらえました。）短い時間ではありましたが、3階同様ににぎやかな雰囲気の中、たくさんの利用者の笑顔を見ることが

出来ました。

日々の活動に加えて、行事を通して見られる利用者さんの表情、いつもと違う時間の大切さを改めて感じた一日でした。いつか「こまつり」ではなく「おまつり」として開催できる日を待ち望みながら、今できる形で行事の在り方を工夫し利用者と一緒に楽しい時間をこれからもつくりたいです。



第41回 びわこ学園実践研究発表会報告

～「いのちと暮らしに寄り添う支援」～ 令和4年12月10日(土)
法人事務局 人財育成部

第41回びわこ学園実践研究発表会は、近年その存在と実態が社会的にも認知されてきている医療的ケア児者への支援について取り上げました。昨年度同様にオンラインで開催し、北は青森から南は大分まで、法人職員とご家族も含み、243名の方に参加いただき、講演と実践報告の2部で行いました。

講演の部 「医療的ケア児の支援実践とネットワークの構築」というテーマで、国立成育医療研究センターの医療型短期入所施設「もみじの家」ハウスマネージャー内多勝康氏に講演いただきました。内多氏は、NHKのアナウンサー時代に医療的ケア児をテーマに番組取材、報道をされたことがきっかけで、「もみじの家」に携われることになったとのこと。医療的ケア児をご家族の置かれている現状や、もみじの家利用時の子供たちのいきいきとした姿をとおして、短期入所がご家族を支援すると共に、子供たちの自立支援の一步ともなっていることをご紹介いただきました。また短期入所事業が単独で機能しているのではなく、医療的ケア児支援センターと連携しチームで支える実践と、その仕組みの重要性をお話いただきました。その後、口分田びわこ学園医療福祉センター草津施設長と南方法人地域担当からびわこ学園が実施している医療的ケア児者関連の支援事業について報告し、支援の課題と今後の事業展開についても意見交換をしました。



もみじの家をバックにご講演いただいた内多氏



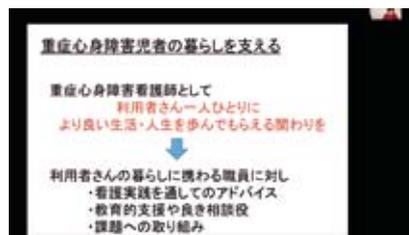
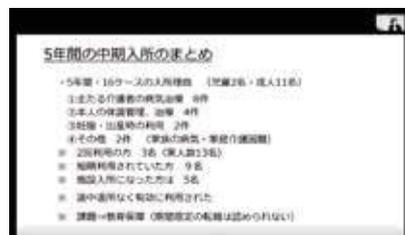
実践報告の部 各事業所から4つの報告を行いました。

報告1は、びわこ学園障害者支援センターの多機能型事業所「ちょこらんど」から「医療的ケア児と家族にとって切れ目のないサポートを目指して」というテーマで報告しました。「ちょこらんど」における支援は、母子分離型で訪問看護との兼務によりタイムリーに情報提供できるという特徴があり、多職種が協働して支援を行っているということで、看護師、保育士、理学療法士がそれぞれの視点で大切にしていることや今後の課題について報告しました。



報告2は、知的障害児者地域生活支援センター相談課の作業療法士から「リハビリ巡回相談から見た重度、高齢化に対する地域支援のアプローチ」というテーマで、地域においても大きな課題となっている加齢に伴う重症心身障害者や知的障害者の重度、重症化に対して、センターが実施しているリハビリ巡回相談において、作業療法士が入所での経験を生かし対応した事例をとおして、医療重度化する利用者の支援に関する地域の現状やリハビリ職に求められる役割についての報告を行いました。

報告3は、びわこ学園医療福祉センター草津から「センター草津の中期入所の現状と課題」というテーマで、地域で生活する利用者が主たる介護者であるご家族の病気や出産、あるいは介護などのライフイベントにより在宅での生活が一時的に難しくなった場合の対応として、2016年から行っている3か月までの中期の有期限の受け入れについて、その経過と今後の課題について報告しました。



報告4は、びわこ学園医療福祉センター野洲から「日本重症心身障害福祉協会認定・重症心身障害看護師の活動報告」というテーマで、協会認定の重症心身障害看護師が担う役割について、アンケート調査をもとに、研修や指導など施設内外での活動と今後の取り組みについて報告しました。

いずれの報告につきましても、オンラインによる質疑を行い、今後の実践につながる意見交換をさせていただくことができました。

ご協力ありがとうございます

(令和4年8月～令和4年11月) (敬称略)

皆様の心温まるご支援に感謝いたします。

寄付金

(寄付金についてはいただいた方の御名前または団体名のみご報告させていただきます。)

法人

東 啓子/白石 剛/古谷皮膚科クリニック 古谷清久

びわこ学園医療福祉センター草津

kunihiko.O

物品の寄付

びわこ学園医療福祉センター草津

日用品…下江暢成/みつばち会 (2口)

その他…矢野有希・北川綾乃/南笠東学区社会福祉協議会 会長 清水和廣/

パナソニックアプライアンスユニオン草津地区協議会/濱岡伸一/小寺いつ子

びわこ学園医療福祉センター野洲

日用品…八木洋子・野洲更生保護女性会

その他…近江富士花緑公園

びわこ学園障害者支援センター

食 品…後藤敏子/岩田淑子/時札妙子/清水寛之/三品和雄/川端 真

ボランティアのみなさん

びわこ学園医療福祉センター草津

みつばち会/天理教江西支部/キラリ☆ウインドポップス/みみすまバンド/

華頂看護専門学校1年生の皆様/加藤常満/尾浦与子/船木篤栄/松永朋子/香川典代/元井芳嗣/

木村広太/大東信喜/近松清司/向吉昌代/加藤美由紀/前田五月/西尾悦子/田中智子/西川千晴/

井上薫代/奥田多恵/池田はるか/鈴木俊子/中嶋朋実/細川知沙/吉川紗生/石田登美子/中村勝彦

びわこ学園医療福祉センター野洲

近江金田教会/更生保護女性会/天理教婦人会/together/ニレトミ会/野洲赤十字奉仕団/

レイカ野洲/レイカディア大学園芸科43期/レイカディア大学園芸科44期/レイカディア大学園芸科OB/

オムロン野洲事業所/安藤真紀/磯 春樹/今里哲也/上田順子/加藤常満/川端しづ子/左部真千恵/

田中規久子/東郷 勇/中富恵子/林 政子/樋口世治/藤山庸子/細川久子/堀田千景/森 紳司

びわこ学園障害者支援センター

ハートフルガーデナーかすみ草 門間正憲/笠縫東学区更生保護女性会 卯田美千代/

玉津学区社会福祉協議会

その他の協力団体

びわこ学園後援会

びわこ学園事業や両医療福祉センターイベントへの助成



びわこ学園からの情報は
随時ホームページでお知らせしております。

ご案内やブログ、採用情報、等はこちらからご覧ください。